

「人生即努力 努力即幸福」-本多静六博士の人生訓-」 解説シート

慶応2年（1866）に生まれた本多静六博士は、昨年生誕150年を迎えました。

博士は、自身の研究分野であった造林学や造園学のみならず、蓄財術や人生訓など様々な著書を出しました。武田正三の『本多静六伝』（昭和32年・埼玉県立文化会館発行）には、博士の編著書として376冊が紹介されています。そのうち人生訓を含む教養書として53冊が紹介されています。これらの著書のなかには、その後も再版を重ねているものや、そのなかにかかれていた言葉を他人が引用している場合などがあり、現代に生きる私達にも今なお博士の考え方を伝えてくれています。



自らの著書と並ぶ本多静六博士

本企画展は、博士の晩年にあたる昭和25年（1950）に発行された『新人生訓早分り』に紹介されている人生訓を中心に、「人生即努力 努力即幸福」などの博士の人生に対する考え方を、わかりやすく紹介するものです。

◎人生即努力 努力即幸福

人間が生きているということは、心で考えたり、身体を動かし働かせたりすることであり、この心の働きと身体の働きを合わせて一般に努力といっています。つまり努力は、人生の本能であり自然であり、全てです。大人の場合、この努力は、仕事（職業）を通じて、勤労という形であらわれます。

幸福の真価は、努力をしている人のみがわかるものです。

博士による「幸福」の定義

幸福とは自己の努力によって、その欲望が満され、精神肉体ともに快感を覚える状態にして、しかもそれが自己の健康と社会の希望に反しない場合をいう。而して、幸福そのものは比較的進歩的なものであるから、常に絶えず新たな努力精進を要するものである。

『新人生訓早分り』19頁より原文のまま転載

## ◎職業道楽

どのような仕事（職業）でも、初めは不慣れなために苦痛を感じることもありますが、一度決めた仕事を天職と信じて一心不乱に努力を続けることで、次第にその仕事が楽にできるようになります。そして、興味を覚えて面白くなると、ついに仕事が道楽へと変わります。

成功した人達というのは、金銭や名誉欲を超越して、その仕事を趣味にして道楽化した人達なのです。

## ◎働学併進

筋肉（身体）の活動である労働と、知能（心）の活動である学問とは、一方に片寄らず並行的（併行的）に行うべきものです。身体を使わずに、心だけを働かせていると、幸福・成功・長命の道に進むことはできません。

一生涯にわたって、この働学併進の生活を楽しむことが人生の真髄であり、幸福・成功・長命の秘訣なのです。

## ◎苦難の谷 歓楽の山

万物の進化は一直線に進行するものではなく、波の形で進行するので、苦難の谷の後には必ず歓楽の山が来ます。

大きな喜びは、大きな苦しみを通して初めて得られるものなので、平凡でその場しのぎの安楽生活のみを追い求めてはなりません。

大きな災難困苦に遭遇した場合には、大きな平和がやがて来ると確信して努力を続ければ、必ず喜びがめぐってきます。

## ◎物の完全と充分とを求むる勿れ

不完全・不充分が人生の真相であって、不完全・不充分であるからこそ努力の必要があります。

もし完全・充分なる天国や極楽浄土に到達してしまったとすれば、努力をする必要がなくなります。「人生＝努力」の考え方からすると、人生のなかで努力をすることは一生懸命生きるということにほかならないのです。

## ◎天才よりも努力

偉大な成功者は、必ずしも生まれながらの天才ではありません。普通の才能の人が、努力・精進している場合が多いのです。

瓦はいくら磨いても玉（宝石）にはならないという人もいますが、人間は誰でも磨けば玉になる素質を持っています。玉になる速度や難易度に差があるだけです。一心不乱に努力・精進することで、持って生まれた個性と才能を発揮していけばいいのです。

## ◎運命の善用

いわゆる運命というものは、大抵は自分の努力で左右させることができます。

人は、様々な理由により不利な境遇となってしまうことがあります。その逆境をうまく用いて努力をしていくことが必要です。博士も、学生の時に落第したことが後に人一倍努力をすることへとつながり、努力をすれば何でも成功できるという真理を体得することができたのです。

## ◎理屈と人情の調和

人間の社会生活は、理屈（理性）のみでは冷酷な争いになってしまい、人情（感情）のみではだらけたものになってしまいます。理性によって感情を抑えるという調和の中にこそ、進歩的・平和的で幸福な人生があります。

独立自強や自由平等は理屈であり、世の中の真理です。しかし、相互に扶助することや子供を愛育し、長老を尊敬することは自然の人情です。要は、両者の調和が必要なのです。

## ◎人の短をそしる勿れ 己の長をほこる勿れ

人の欠点が見えるときは自分の心が曇っているからだと思い、自らを顧みて心を改めれば、欠点に見えていたことが利点に見え、自らも幸福となります。

また、罪を憎んで人を憎まないようにすれば、世の中に嫌な人・嫌いな人はいなくなり、みな良い人・好きな人ばかりになって、自分もまた世間から好かれるようになり、幸福な人になることができます。

## たいぼうせいかつ ◎耐乏生活

いかなる不景気も決してそのまま永久に続くものではありません。「冬来たりなば春遠からじ」、雪の下には早くも花咲く春が萌え出でつつあるものです。

大きな苦難は、それに耐え忍びさえすれば、かえって大きな歓喜の種子であることを確信するべきです。

## めいり もと ◎名利を求むるな

努力が人生の全てですから、人間は一生努力を続けてさえいればいいのです。名利（名譽や金銭）は人生の目的ではなく、仕事を道楽としていけば求めなくても自然とほかから与えられるものであり、いわば「職業道楽の粕」です。自ら求めた名利はやがて苦痛の種子となりますが、与えられた名利はさらに高い名利を生んでくれるのです。

## しっと てき さ ◎嫉妬の敵を避けよ

どのような人物でも、嫉妬の敵は避けがたいものです。自分一人が成功し、人の上に立って羨まれるようになると、永く幸福生活を保つことはできません。名利は人に譲って責めは自ら負う必要があります。常に穏やかで慎み深く簡素な生活をし、ひそかに慈善奉仕を行って縁の下の力持ちを楽しみつつ、学び働き続けてポックリ往生することが、最も幸福な健康長寿生活の真髄なのです。

人生訓の説明文は、博士の言葉を、現代語風にわかりやすくまとめたものです。そのため、博士の言葉そのものではありません。

本多静六記念館企画展

「“人生即努力 努力即幸福” -本多静六博士の人生訓-」 解説シート

会期：平成 29 年 1 月 29 日（日）～3 月 26 日（日）

本多静六記念館

〒346-0192

埼玉県久喜市菖蒲町新堀 38 菖蒲総合支所 5 階

電話：0480-85-1111